

芸術科（音楽）における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- コロナ禍の状況の中、これまで一定の成果が表れていた取組みの多くに制限がかかったこと。
- 従来の評価の4観点と学習指導要領改訂に伴う3観点との対応関係を十分理解できていないこと。
- 実技テスト中心の「取組みの最終段階」での「技能」の評価を行うことに重点がおかれていること
- 生徒の学習状況を把握して適切な指導につなげること（「指導に生かす評価」）が十分ではないこと。

特に歌唱を伴う活動では、今まで「主体性」を引き出す授業の中心的存在であった「合唱」によるパート練習や歌唱練習などを制限せざるを得なかった。

従来から芸術科（音楽）では「観点別学習状況の評価」の取組みが充実していたにも関わらず、「何か新しいことを始めなければいけない」という考えにとらわれてしまった教員が多かった。

グループ単位で練習する際に、生徒が自身の課題に気がつかないまま時間だけが経過してしまうケースもあった。

上記課題を解決するために必要だと考えられること

- コロナ禍前に戻すのではなく、コロナ禍で培った歌唱指導の工夫や一人一台端末の活用などの効果的な指導については継続して実施すること
⇒「歌う時間は短くても曲とは長く向き合う」ことができる。
- これまで実施してきた学習評価が、観点別学習状況の評価の観点【知識・技能】、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】のうち、どの観点到該当するのかを整理すること。
⇒これまでの評価の実践を生かすことができる。
- 演奏の聴取から「できている」、「できていない」ということだけを評価する段階を超えた、題材の目標が実現されているかどうかを確認するための「見取り」の充実
⇒3つの資質・能力のバランスよい育成につながる。
- 実技教科の特性上、生徒たちの主体的な活動がメインで授業が展開されていく中で、途中経過を適切に見取り指導することによって、この題材では「何ができるようになれば良いのか」が明確になり、生徒が「できた」「わかった」ということを経験することによって、自らの感性を働かせながら音楽を価値あるものとして実感できる。

歌の練習だけではなく、「きれいなハーモニーを使って何を伝えますか？」の「何を」の部分を考えるといった音楽表現において大切なものを見つめ直す機会をつくる。
また、実技テストなどは一人一台端末を活用して「自分が一番納得のいく動画を提出する」という形式にすることによって、自分の実技を客観的に振り返ったり、「粘り強く取り組む」態度を育んだりすることにつながる。

「指導と評価の年間計画（シラバス）」や題材の評価計画等によって、評価方法や評価のポイント、評価の場面を可視化することが重要である。

一つの題材で必ずしも3観点を見取る必要はなく、年間を通してバランスよく育成することが重要である。

題材の目標は伝えていると思うが、大きな題材になるほど生徒たちの活動の時間が長くなる。その活動の中で「何ができるようになれば良いのか」を適切に見取り指導することによって、生徒全員に確実に資質・能力を身に付けさせることが重要である。

課題解決に向けた具体的な実践例

- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 従来から実践されている学習活動からどの部分を充実すべきか

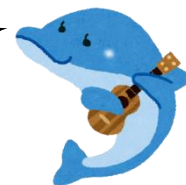
《夏の思い出》学習活動

1	<ul style="list-style-type: none"> ①尾瀬や水芭蕉の写真を見て情景を把握する。 ②1番を階名で歌い、旋律の動きや曲の雰囲気把握する。 ③歌詞を読んで、1番を歌詞で歌って「好きな歌詞」を抜き出す。 ④「はるかなおぜ」を中心に部分練習を行い、旋律の動きに相応しい歌い方を考える。 ⑤2番を歌詞で歌う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ①前時の振り返りを行う。 ②歌詞の音読を行う。 ③日本語の発音にふさわしい発声方法を練習する。 ④全員で合わせて歌う。 ⑤「振り返りシート」に学習の成果を記入する。



生徒たちは、この曲を学習する目的や目標をわかっているかな？

意見を出し合ったり、協力して音楽を創り上げたり、歌唱表現の工夫を考える活動も取り入れることができるよね！



「技能」がないと「表現」できないし、資質・能力を一体的に身に付ける指導が必要だよ。

和声や強弱の変化に注目することによって、曲のイメージとして、例えば、何かの存在（やさしいかぜ）に気づき、『水芭蕉との出会い』をより印象深く表すなどの歌詞と音楽の構造との関わりを学習させることもできるね。



さらに考えるとすれば…



活動は充実していても、学ぶ側の生徒が「何かを学ぶために歌う」や「何かを表現するために演奏する」ということを理解して取り組めるようにすることが大事

課題解決に向けた具体的な実践例

- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 従来から実践されている学習活動からどの部分を充実すべきか

《夏の思い出》学習活動

1	<ul style="list-style-type: none"> ①尾瀬や水芭蕉の写真を見て情景を把握する。 ②1番を階名で歌い、旋律の動きや曲の雰囲気把握する。 ③歌詞を読んで、1番を歌詞で歌って「好きな歌詞」を抜き出す。 ④「はるかなおぜ」を中心に部分練習を行い、旋律の動きに相応しい歌い方を考える。 ⑤2番を歌詞で歌う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ①前時の振り返りを行う。 ②歌詞の音読を行う。 ③日本語の発音にふさわしい発声方法を練習する。 ④全員で合わせて歌う。 ⑤「振り返りシート」に学習の成果を記入する。

この題材では「響きのある声で歌わせたい」のか、「音楽記号の意味に沿った表現の工夫をさせたい」のか、「音楽記号と歌詞の意味との関わりについて考えさせたい」のかがはっきりしません。
また、「観点別学習状況の評価」について考えたときに、それぞれ3つの観点をどのタイミングでどのように評価するのか、何を見取るのかがはっきりとしていません。



「これまで聴き取れなかった音が聴きとれた」、「これまでできなかったことができるようになった」、「これまでわからなかったことがよくわかった」、「“楽しい”と感ずることができた」
⇒「できた！」や満足感を実感することのできる授業に

【そのためには】

- 演奏中心の授業から、もう少し音楽と向き合う時間を取ったり、楽曲について考えることのできる内容を取り入れていく。
- 【知識・技能】で一括りの評価をしていたが、改めて【知識】について「何を理解するのか」を明確にして指導する。
- 実技テストのみで評価するのではなく、普段の取組み状況や態度なども考慮していきたい。
- 普段はよく出来ているが、テストになるとなかなか実力が発揮できない生徒へのてだてを考えていく。



●府立高校での実践事例

題材：ベートーヴェンの交響曲第9番《An die Freude》を探究しよう

・題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解し、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えて聴く。
- (3) 混声合唱の響きを味わいながら歌うことや、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

ポイント

音楽について、歴史的・文化的背景や曲想と音楽の構造と関わりながら総合的に理解されることによって、音楽のよさや美しさを深く感受できることをねらいとしています。

・題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
<p>【知①】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 (歌唱)</p> <p>【技】表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 (歌唱)</p> <p>【知②】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 (鑑賞)</p>	<p>【思①】音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。(歌唱・鑑賞)</p> <p>【思②】どのように歌うかについて表現意図をもっている。(歌唱)</p> <p>【思③】自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、音楽のよさや美しさ自ら味わって聴いている。 (鑑賞)</p>	<p>オーケストラの響きや混声合唱の響きを意識しながら歌うことや、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

ポイント

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要となる技能を身に付け、楽曲にふさわしい表現を工夫して合唱することを見取ります。

・題材の指導と評価の計画

次	時	学習内容	主な評価規準 (評価方法)
1	1	<p>◆クラシック音楽に親しむ</p> <p>○楽曲について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交響曲第9番第4楽章を鑑賞する。 ・楽曲の背景、歌詞の大意、音楽の構造について理解する。 	<p>【a】(ワークシート)</p> <p>「交響曲第9番第4楽章」について曲想と音の構造との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p>
2	2 3 4	<p>◆作曲家の表現意図を踏まえて、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、表現を工夫する。</p> <p>○《An die Freude》のパート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとにClassroomに配信している合唱練習用音源を使用して譜読みをする。 ・ドイツ語の発音、歌詞の意味を理解する。 ・ドイツ語の発音(子音、ウムラウト等)、合唱表現にふさわしい発声法に注意しながら歌唱する。 	<p>【c】(観察・ワークシート)</p> <p>曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>
3	5 6 7	<p>○《An die Freude》のパート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受して、楽譜で確認しながら練習をする。 ・個人でChromebookを用いて録音を行い、自分が一番良い演奏と思うものを提出する。 	<p>【a】(録音の確認)</p> <p>表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けている。</p> <p>【b・c】(観察・ワークシート)</p> <p>自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。</p>
4	8 9	<p>◆意見を出し合いながら、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○全体練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な音程とハーモニー、音色、発音を意識して音楽表現を深める。 ・楽曲全体の曲の構成を考え、どのように演奏するのかを試行錯誤する。 	<p>【a・b】(観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とその働きについて知覚・感受したことについて書けている。 ・他のパートとの調和を意識したりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。
5	10 11	<p>◆意見を出し合いながら表現の工夫をし、楽曲を完成させる。</p> <p>○実技試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでChromebookを用いて録音動画の撮影を行い、Classroomの課題機能を使って提出する。 ・録音、録画したものを全パートでつなぎ合わせた動画を鑑賞し、自分たちの演奏を客観的に聴く。 	<p>【a・b】(演奏の聴取)</p> <p>適切な発声、発音、音程、強弱等を意識しながら、自己のイメージを歌唱で表現している。</p> <p>【c】(ワークシート)</p> <p>混声合唱の響きを意識しながら歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

ポイント

- ・歌詞や旋律がもつ意味や作曲者が曲に込めた思いなどをしっかりと理解する。
- ・それに相応しい表現方法を探究する。
- ・自分の演奏を客観的に聴くことによって自分の課題を見つける。
- ・他者と意見交換することによって更に表現の幅が広がることを意識して計画しました。



芸術
音楽

●第7時（本時）の展開

(1) 本時の目標

自分の演奏を録画録音することで何度も客観的に聴き、課題点を確認し改善するため練習を進めることができる。

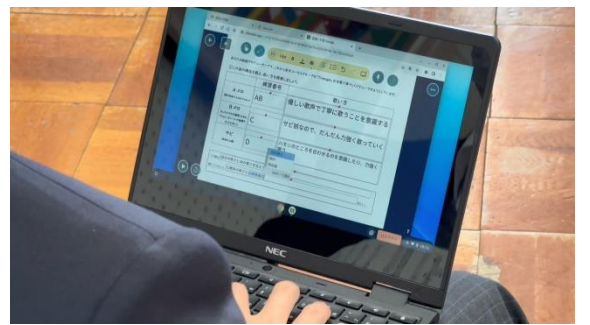
(2) 本時の評価規準

自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。

(3) 本時の学習過程



生徒の主体性を引き出すためのアイデア
 本題材で学習したことを授業内の発表だけでなく、TV番組の第九の動画投稿企画に参加することで、生徒の意欲を引き出し、オーケストラによる音楽の完成形を体感することができ、学びを深めることができる。



芸術
音楽

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価方法 ○形成的評価、●総括的評価
導入 5分	①本日の学習内容の確認 ・ドイツ語の発音に注意し、音程、リズム、発声、強弱に着目して歌う。 ・自分の演奏を客観的に聴いてみる。	・本時の流れ、目標、録画録音の流れを理解させる。	
展開① 15分	②発声練習、発音練習 ・前時までの発音のポイント等を確認しながら練習する。 ③パート練習 ・音程、リズム、発声、強弱に着目して練習する。	・生徒が歌詞や発音と向き合い、より深い学びを促すために歌詞の音読を課題として設定する。 ・旋律の動きを把握し、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、表現豊かに歌う技の習得を図る。	○観察【知・技、主】
展開② 25分	④Chromebookを用いて録音を行い、自分が一番良い演奏と思うものを提出する。 ・まずは録音してみて、自分の演奏を客観的に聴く。 ・自分の演奏の課題点は何なのかを確認する。 ・どのように改善すれば良いかをワークシートにまとめる。	・各パート2人ずつの班に分かれ、班で《An die Freude》を歌い録画録音を行う。 ・録音動画で客観的に自らの演奏を聴くことで、ドイツ語の発音や音程、リズム等を確認しながら、より良い演奏になるように試行錯誤を繰り返すように促す。 ・何度も取り直しが可能だと伝える。	○観察【知・技、主】
まとめ 5分	⑤試行錯誤した内容についてまとめる。	・録音を客観的に聴いて課題を把握し、その課題解決のための工夫を考えることが、より良い演奏につながることを理解させる。	●録画録音動画、ワークシート【思、主】 自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。

ポイント

一人一台端末は、アプリを活用した創作だけでなく、録音を活用した個人の実技テストや「思考・判断・表現」を見取るためのグループでのワークシートの共同編集なども行うことができる。また、Chromebookでの録画録音は、グループで歌っても自分の声にフォーカスされて録音されるので、評価の際も一人ずつの声を確認することができる。

実践の振り返りから考えられること

- ・グループワークとして、音楽表現が難しい箇所において、どのようにすれば解決するかをお互いに話し合う機会をもった。話し合うことでより具体的な方法が編み出されるなど、自らの考えや意見が音楽に還元される仕組みを作ることによって、より主体的に取り組むことにつながった。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、この観点だけ切り取って評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点を踏まえて評価していくべき。
- ・実技テストや発表だけで評価するのではなく、そこまでの過程で考えたり表現を試みた内容も可能な限り評価していく必要がある。
- ・振り返りでの記述に「難しかった」「最初は無理だと思ったが練習を重ねるうちにできるようになった」「達成感があった」などの内容が多くあったので、概ね課題設定や目標設定は間違っていなかった。
- ・テスト本番に失敗しても、その場での声かけがさらに自己評価や向上心につながっていることも生徒の記述から読み取れたため、丁寧な声かけが主体的な学びにつながる。

生徒の主体性を引き出すためのアイデア

器楽（ギター）の題材では大きく前後半に分けた。前半は、ギターの扱い方や奏法等を学び、個人の技術を高める。後半は、学習したギターを使用したアンサンブルに挑戦する。前半では、右のチェック表を用いて自分がどこまでの課題を終えたのかを分かるように個人チェックを行った。初めてギターに触る生徒にはちょうどいい課題だが、経験者にとっては簡単な内容なので、自由課題も設定し、高度な曲にもチャレンジさせた。

ギター課題チェック表	
年 組 番 名 前	
<small>・合格したら次の課題に進む。 ・最後に提出するので、なくさないように。 ・課題1～5は、全員。 ・自由課題は、希望者のみ。1人で弾き歌い、もしくは、ヴォーカルとギターに分かれて2人で。 ・曲名とVヴォーカル・Gギターどちらかに○をして持ってくる。</small>	
課題1: ドレミファソの曲 の中から1曲	自由課題① 曲名: V・G
課題2: コードC/G/G7	自由課題② 曲名: V・G
課題3: かっこよく弾き歌い	自由課題③ 曲名: V・G
課題4: ちょうちょう 弾き歌い	自由課題④ 曲名: V・G
課題5: 大きな古時計 弾き歌い	自由課題⑤ 曲名: V・G
自由課題曲名 I Love You・乾杯・情熱の薔薇・桜坂・TRAIN TRAIN・栄光の瞬間・キセキ 粉雪・夢の中へなど。	
最終課題はグループで合奏	



(参考) ある府立高校での2学期の配点

題材	評価方法	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱	実技テスト	20		20
	実技テスト	20	15	30
	ワークシート		15	
器楽	技能テスト	10		
	発表	30	30	50
創作	作品提出	20	20	
	ワークシート		20	
合計		100	100	100
講座平均		64.7	62.4	60.8

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法から生徒のどのような点（姿）を評価したか
→発表に向けてグループで意見交換ができていいるか、また、アイデアを受け入れグループの演奏に活かそうとしているかを評価した。
- 2学期の題材の「主体的・対話的で深い学び」を実現するアイデア
→ギターアンサンブルにおいて、ICTを活用し、それぞれ表現の工夫について意見を出し合い、一つの音楽へとまとめる学習を行った。
→合唱において、各パート1人ずつの計3人でハーモニーを奏でる練習を行った。Chromebookで録音を行い、録音したものをグループで聴き検証を行い、どうすれば美しいハーモニーになるか考える学習を行った。